

「長崎さるく博」

「長崎さるく博」という一風変わった博覧会が、去る2006年4月1日(土)から始まり、10月29日(日)まで行われる。そこで、今回はその紹介をします。



「長崎さるく博」とは何ですか・・・日本ではじめての「まち歩き博覧会」です。

鎖国の日本でただひとつ海外に開かれ、幕末の開国で西洋文化がどっと押し寄せたまちである長崎は、日本と中国と西洋の文化が今なお色濃く混在するまちといえます。

つまり、この長崎のまちをゆっくり歩いてみませんか？というものです。

また、このさるく博は、パビリオンを建てて入場料を取るという、博覧会ではありません。それは、パビリオンに替わるものが、居留地・寺町・唐人屋敷・教会群・平和公園・浜町・新地・稲佐山・グラバー園・出島・博物館・美術館・外海・野母崎なのです。そこで、それらを楽しむ方法をささげと提示できれば、観光客に長崎の都市観光を存分に楽しんでもらえるのではないかと考え「長崎遊さるく」「長崎通(つう)さるく」「長崎学さるく」というコースが作られています。自分の興味や関心に合わせて選び、楽しみながら、学びながら、長崎のまちの魅力を存分に味わって欲しい、といった企画なのです。

「さるく博」に長崎教区では

何かやっていないのですか・・・

「長崎さるく博」タイアップイベントとして「市民セミナー」2006「長崎の宗教と文化」をアシエンダNOVAながさきの主催、国宝・大浦天主堂(カトリック長崎大司教区)の共催で行っています。

「長崎のまちを、さるく」、講話を聞き、「音楽を楽しむ」という二部構成の7回シリーズです。

第一部の「ミニさるく」では、講演テーマに合わせた場所を案内人付きで歩きます。

一部・三部は国宝の大浦天主堂を会場に行われ、第二部では「神と仏と人間」という大きなテーマでキリスト教や諸宗(神道・仏教)の方々が長崎の街で織りなしてきたその融合の文化について考えるところということで、講演が行われます。

第三部の「音楽の夕べ」では、この一連のテーマに合わせた音楽を楽しんでいただいています。

これまで4回行われましたが、毎回大勢の参加者があることは、長崎市民の関心が高いことを表わしているように思われます。

さるくコースで、何か珍しいものを

紹介してください。

「新地・唐人屋敷界隈」というコースがあるので紹介しましょう。

長崎に住んでいた中国の人たちは、元禄時代前まで市内に散在していましたが、やがて、密輸やキリスト教浸透の恐れがあるという理由で、この唐人屋敷に住まわせたのです。

出島の2倍以上の広さの敷地内に長屋が20棟立ち並び、周囲を煉塀で囲み、さらにその周りを竹矢来で囲い、入口には番所が設けられ、無用の出入りを

を検査しました。船載貨物は新地蔵に預けられ、中国の人たちは手回り品のみで帰帆まで館内で生活したそうです。

現在もなお、4つの建物が再建されていますが、その中に

「天后聖母」を祀って建立されている「天后堂」というのがあります。



天后聖母



新地にある天后堂

「元文元年(1736年)、南京地方の人々が航海安全を祈願し、天后聖母を祀って建立。寛政2年修復。現在の建物は、明治39(1906)年、全国の華僑の寄付で建てられました。関帝も祀っているの

で、別名「関帝堂」とも呼ばれています。・・・」

(さるくコースマップ) 館より抜粋